

# あさのちゃんねる



**vol.41**  
2022年 春号  
(年4回発行)

**特集**

「40歳を過ぎたら定期検査を!  
視野が欠けてくる緑内障」

眼科副部長  
吉良 医師 インタビュー

**連携登録医のご紹介**  
**わせだ@ホームクリニック**

院長 早稲田 洋平 先生

**病院の理念**

救急から在宅まで、地域の医療を守り支える病院を目指します。

**病院の方針**

【地域連携】医療・介護・福祉が一体となった切れ目のない医療サービスを提供し、地域医療の充実に努めます。

【救急医療】断らない救急医療を目指します。

【予防医学】健康診断を推進し、病気の予防・早期発見に努めます。

【チーム医療】患者さん中心のチーム医療を実践し、安全・安心で質の高い医療の提供に努めます。

【人材育成】次代の医療を担う信頼される人材の育成に努めます。



眼科副部長  
きら まさみ  
**吉良 雅美**

日本眼科学会専門医

**趣味**  
旅行、猫グッズ集め

**座右の銘**

ひとつハードルを飛び越えられれば、必ずひとつ力がつく。  
それが自信になって、次にはもう一段高いハードルを  
越えられるものだ。

**健康法**  
スクワットで筋力アップ

**診察日**

月・火・水・木・金曜の午前、第4・5土曜の午前

# 40歳を過ぎたら定期検査を! 視野が欠けてくる 緑内障

40歳以上の20人に1人は有病者と言われる緑内障。初期では症状がないため、気づかぬうちに進行していることもめずらしくありません。40歳を過ぎたら定期的に検査をし、早期発見することが大事です。

## 症状が出た時には 進行している緑内障

眼には、映像を結ぶスクリーンのような役割を果たす網膜があり、網膜に映し出された映像は眼球の後ろにある網膜神経細胞を通じて脳へと伝達されます。簡単に言えば、これが「モノを見ること」です。緑内障は眼圧の上昇などによってこの網膜神経細胞が傷み、視野がだんだん欠けてくる病気です。

緑内障とひとくくりに言っても、さまざまな種類があります。眼の中は房水という液体が循環して眼圧を調整していますが、房水の排水がうまくいかないと眼圧が上昇してしまいます。房水の排水口にあたる隅角という部分が狭くなっているタイプを閉塞隅角緑内障と呼び、隅角が開いているものの目詰まりを起こして排水できないタイプを開放隅角緑内障と呼びます。日本人の緑内障患者に最も多いタイプが開放隅角緑内障のひとつである正常眼圧緑内障です。これは正常な眼圧であるにも関わらず、数年から数十年かけてゆっくりと視野が欠けていく慢性型です。一方、なんらかの原因で眼圧が突然急上昇するのが急性緑内障発作で、眼の痛みや頭痛、吐き気などの症状があらわれます。このタイプは、眼の中で隅角が狭くなる狭隅角を起こしており、薬の副作用や暗い部屋で作業をするなど、ちょっとしたことが引き金となり、急性発作を起こします。狭隅角は検査で調べられるので、もし診断されたら経過観察をしましょう。急性緑内障発作は若い頃に視力が良かった女性に多い傾向です。

## デジタルデバイスによる 眼の酷使に注意

近年、スマートフォンやパソコンを長時間使うことが当たり前の環境で、近視の方が増えており、強度近視の合併症による緑内障も増加しています。緑内障は初期だと症状がなく、また、片方の目に見えない部分があっても、もう片方の目がそれをカバーしてしまうため、「見えていないこと」に気づきにくく、受診が遅れてしまうケースが多くあります。「ちゃんと見えているから大丈夫」と過信せず、40歳を過ぎたら定期的に眼科で検査を受けてください。緑内障のほとんどを占めている正常眼圧緑内障は眼圧が正常範囲内であるため、眼圧検査だけでは診断がつきません。急性発作緑内障も発作を起こすまでは症状がないため、やはり検査が予防になります。眼科では、眼圧検査、網膜神経細胞の状態を見る眼底検査、鮮明に見えていない範囲を見る視野検査をし、診断します。「家族に緑内障の方がいる」「強度近視」「眼圧が高い」などリスクが高い方は医師と相談し、定期的に経過観察をしましょう。また、糖尿病やサルコイドーシス、ベーチェット病など合併症として緑内障を発症しやすい病気もあるので、主治医に相談して診察を受けてください。



## 新薬も増え、 うまく付き合える病気に

緑内障はどのタイプでも、治療の基本は「眼圧を下げる」とことです。眼圧を下げることで網膜神経細胞の障害を防ぎ、視野障害の進行を食い止める。眼圧は、日本人で10~20mmHgが正常範囲とされていますが、残念ながらこの正常値内であるにも関わらず網膜神経細胞が傷んでしまう方が大勢いるため、個々で目標眼圧を

設定します。慢性型の患者さんはまず点眼薬による薬物治療をし、目薬1種類で効果がなければ、変更したり、作用の違う目薬を組み合わせたりして使います。薬物治療では効果が不十分な場合、レーザー治療や手術を行います。最近では、点眼薬を減らすことを目的に早い段階で手術を選択することもあります。緑内障の治療は新薬も増え、早いうちから適切な治療をすればコントロールできるようになっています。

普段の生活では、厳しい制限はありませんが、できるだけ喫煙とストレスは避けましょう。暗い部屋での読書やうつむいたままでの長時間の作業は急性緑内障発作を誘発することがあるので注意が必要です。また、大量の水分の一気飲みは眼圧を急上昇させるので、やめてください。

## Quality of visionで 生き方が変わる！

私が眼科医を目指した背景には、尊敬する祖父の存在があります。医学生の頃、緑内障の祖父から手紙をもらい、達筆だった祖父の字が曲がっていることにショックを受けました。同じようにつらい思いをしている方を治したいと思い、眼科医の道に進みました。

医師をしてきて、あるご年配の女性患者さんの言葉が忘れられません。その方は白内障の手術を望まれたのですが心臓に病気があり、循環器内科の主治医から「手術中に落命してしまう可能性がある」と言われました。患者さんに生命の危険性があると告げたところ、その方は「先生、このままでは三途の川も渡れません！見えないまま生きていても死んでいるようなものです！死んでもいいから手術がしたいです！」とおっしゃいました。その言葉で「見えることは人生そのもの」と気づかされました。結局、万全の体制で手術をし、無事に退院されました。

これからも医師として一生懸命治療にあたっていきます。患者さんにも、ぜひ治療に参加する気持ちを持つてほしいと思います。医師と患者さんが二人三脚で治療に臨むことで、病気はいい方向へ向かうものです。一緒に前向きに頑張りましょう！

当科は、眼科医3名による常勤体制で診療しています。白内障、緑内障、ドライアイやアレルギー性疾患、感染症、ぶどう膜炎、網膜硝子体疾患、黄斑疾患などさまざまな眼の疾患を診断・治療しています。白内障手術、斜視手術、眼瞼手術、緑内障手術、後発白内障手術、硝子体手術に対応し、経験豊富な医師が執刀しています。また、弱視訓練の優秀なスタッフがおりますので、お気軽にご相談ください。

## 眼圧が正常でも、よく見えていても油断は禁物！ 40歳を過ぎたら、緑内障の定期検診を



### 緑内障ってどんな病気？

緑内障は、眼圧の上昇などによって眼球の網膜神経細胞が傷つき、視野が欠けていく病気です。しかし、眼圧が正常だからといって安心はできません。網膜神経細胞の強さは人によって異なるため、眼圧が正常でも緑内障になる方もいます。このような緑内障は「正常眼圧緑内障」と呼ばれ、日本人の緑内障患者さんの大半がこのタイプと言われています。初期には症状がなく、知らないうちに進行するため、40歳を過ぎたら検診を受けましょう！

### リスクが高い人は？

- 家族に緑内障の方がいる
- 眼圧が高い
- 高齢の方
- 強い近視の方

左記のリスクに該当しなくても、発症することがあります。また、糖尿病やサルコイドーシス、ベーチェット病等の全身病やヘルペス等の感染症などの合併症として緑内障を発症しやすい病気もあります。40歳以上の日本人の20人に1人が緑内障と推定されますが、初期には症状がないため、その大半が未発見、未治療だと考えられています。

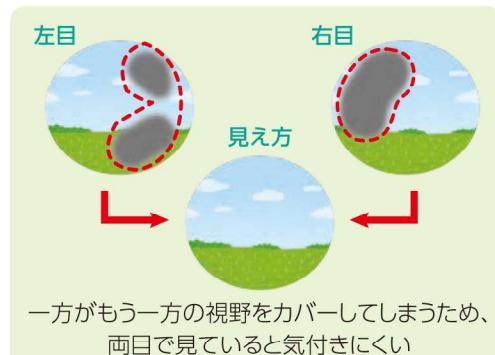
### 緑内障の進行のスピードは？

緑内障の中でも患者さんが多い正常眼圧緑内障は、数年から数十年という長い時間をかけてゆっくり進行します。

**初期** ほとんどの方が「無自覚」な状態です。視野の一部が欠けても、欠けた部分が小さかったり、端だったりすると気づきません。

**中期** 視野欠損に加え、かすみが出現します。文字の一部が欠けて見えたり、テレビで見えない部分が出てきたりしますが、老眼や白内障と勘違いし、発見が遅れることもあります。

**末期** 鮮明に見える範囲が非常に狭くなります。  
視野の中心で欠損すると視力が極端に低下します。



### 治療法は？

治療では、眼圧を下げ、これ以上、網膜神経細胞が傷まないようにしますが、眼圧の下がりやすさは患者さんによって違います。最初は点眼薬(目薬)で治療を始め、1種類の薬を使ってみて効果を見ながら薬を変えたり、追加したりして、その人に合った治療を選択します。

点眼薬だけでは十分な効果が見られない場合は、レーザー治療や手術を行います。手術は緑内障を完治させる手段ではなく、あくまで眼圧を下げて病気を進行させないための外科的治療です。

一度、視野が欠けてしまうと元には戻らないため、早期発見・早期治療をして進行を止めましょう！

近年では新薬が登場し、病状が軽いうちに点眼薬の治療を続ければ、多くの場合、失明に至りません。だからこそ定期検査をすることが大事です。

# 産科センター紹介

## 安心・安全な出産を浅ノ川総合病院で。

「早くいつもの日常に戻ってほしい。」そう願いながら新型コロナが流行してはや2年。人生の一大イベントである喜ばしい出産においても、面会制限、立会い分娩の中止等、孤独と不安を抱く妊婦さんも多いかと思います。当院では外来妊婦健診時から助産師が個別介入し、産後まで切れ目のないサポートを行っております。

安産・育児・骨盤ケア教室、ベビーマッサージ等は現在休止中ですが、外来診察時に助産師が個別に指導を行い、妊娠中の不安や疑問の緩和に努めています。妊婦健診時には、3D・4D超音波で赤ちゃんのかわいい表情を見ることができますし、総合病院のため、糖尿病等の合併症を抱えている妊婦さんへの対応も可能です。また、分娩入院の際は妊婦さん全例に新型コロナの検査を実施し、医療安全、感染の認定看護師指導の下、新型コロナ対策を強化して分娩を取り扱い、安心・安全な出産となるようにサポートをしています。



### LDR

出産はLDR『labor (陣痛) delivery (分娩) recovery (回復)』という、陣痛開始から出産まで移動することなく同一の部屋で過ごすことのできる方法を取り入れています。現在、立会い分娩はできませんが、必ずスタッフがそばに付き添い、不安と苦痛の緩和に努めながら出産のサポートを行っています。出産後より母児同室を行い、母乳育児を推進していますが、母体の休息が必要な時には新生児室でのお預かりもしています。

強力な換気システムも設置

ベテランの男性医師と同じ同性として安心できる女性医師、優しい小児科医師、そしてスキルを積んだ助産師と看護師がチーム一丸となり、妊婦健診から産後1ヶ月健診までのサポートを行っています。スタッフ一同、全力を挙げてサポートさせて頂きます。産科への受診、出産をお待ちしております。



(左:明星医師 右:瀬戸医師)



(小児科:中川医師)

### ママの声

- 痛い時にずっとそばでさすって励まして下さり、安心する言葉で本当に心強かったです。  
ありがとうございました。
- コロナの中での出産でとても不安でしたが、医師、看護師、助産師さん皆様にしっかりサポートしていただき、無事息子に会う事ができ、大変感謝しています
- 初めての育児にわからないことばかりでしたが、とても丁寧に教えてくれて安心しました。



# 地域と気軽につながるオンラインイベントの取り組み

コロナ禍による地域の方々とのコミュニケーション不足に対し、地域連携部では、地域の方々と「Zoom」を用いたオンラインイベントの取り組みを行っています。



## 2021年度 救急症例検討会

開催日:2022年2月10日(木)

開催形式:オンライン形式

参加対象:救急隊員、病院職員

参加人数:約120名(救急隊員:約80名、病院職員:約40名)

内 容:

▶症例検討会

当院搬送後に心臓血管センター金沢循環器病院へ転送となった症例

▶当院の機能紹介

・新任医師紹介

・発熱外来・コロナ病棟紹介 内科医長 加藤 諒 先生(呼吸器内科)

▶救急活動に関する情報交換

症例検討会は、気軽に参加できるオンライン開催ということもあり、過去最多の参加人数で活発な検討・情報交換が行われました。特に症例検討会では、救急隊⇒当院⇒心臓血管センター金沢循環器病院とつながれた症例に関わった3機関から一連の経過や病態の説明が行われました。転送となった稀な症例であるとともに連携して傷病者に対応した症例として参加者の関心が高く、アンケートでは大変ご好評をいただきました。また、参加できなかった方のために後日YouTube限定配信をさせていただきました。今後も当院は、救急隊との「思いを伝え合える」連携を推進し、より良い救急医療を地域に提供できるよう努めてまいります。

## 第79回 オープンカンファレンス

開催日:2022年3月2日(水)

開催形式:オンライン形式

参加対象:医療従事者

参加人数:約20名



## 石川県てんかん治療地域連携協議会主催 2021年度 てんかん地域医療連携セミナー

開催日:2022年3月19日(土)

開催形式:ハイブリッド形式(集合・対面形式+オンライン形式)

参加対象:医療従事者

参加人数:約40名



## 石川県てんかん治療地域連携協議会主催 2021年度 県民公開講座

開催日:2022年3月20日(日)

開催形式:ハイブリッド形式(集合・対面形式+オンライン形式)

参加対象:住民、医療・介護・福祉従事者

参加人数:約45名

# 連携登録医のご紹介

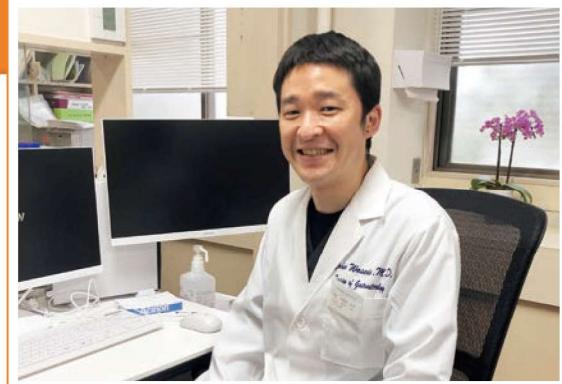
今回は、金沢市駅西本町の  
『わせだ@ホームクリニック』をご紹介  
いたします。

2022年1月、金沢市駅西本町にあります岩城内科  
医院を継承し、わせだ@ホームクリニックを開院いたし  
ました。

一般内科・消化器内科・消化器内視鏡診療に加え、  
在宅医療・在宅緩和ケアにも積極的に取り組んでおり  
ます。金沢市北部地域の訪問診療をする機会も多く、  
浅ノ川総合病院、そしてあさのがわ訪問リハビリ・訪  
問看護ステーションのスタッフの方々には日頃より緊  
密に連携していただき感謝しております。

ご家族が大切にしていることを尊重し、地域の多職  
種や近隣の医療機関と連携しながら、皆様が住み慣れ  
た地域で安心して自分らしく過ごせるよう医療・ケア  
を提供していきたいと思います。

今後ともよろしくお願ひいたします。



院長 早稲田 洋平 先生

## わせだ@ホームクリニック

診療科：内科、消化器内科、内視鏡内科、肝臓内科、  
緩和ケア内科

専門医資格：日本内科学会 総合内科専門医  
日本消化器病学会 消化器病専門医  
日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医  
日本肝臓学会 肝臓専門医  
日本消化管学会 胃腸科専門医

略歴：金沢大学医学部卒  
金沢大学附属病院  
石川県立中央病院  
浅ノ川総合病院  
やまと@ホームクリニック

### 診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○		○	○	○	/
12:30~16:00	訪問診療						
16:00~18:00	○	○		○	○	/	/

休診日：日曜日、祝日、水曜、土曜日午後

住所：〒920-0025

金沢市駅西本町2丁目5-20

電話：076-223-2111

駐車場：あり

アクセス：北鉄中央市場口より徒歩3分



クリニック外観

### 連携登録医とは

地域の医療機関と浅ノ川総合病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の提携を目指して開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。

# 新任医師紹介

今年4月に赴任された  
医師を紹介します！



内科

かわはら ひろゆき  
**川原 寛之**

丁寧な診察を心がけています。よろしく  
お願いします。

専門分野／リウマチ、膠原病



内科

いしげ ようこ  
**石毛 陽子**

皆さんに寄り添い、丁寧な診察ができる  
ように心がけていきます。よろしくお願  
いします。

専門分野／呼吸器



内科

つむら たかし  
**津村 崇**

患者さん第一に、地域医療に貢献できま  
すよう頑張ります。よろしくお願ひしま  
す。

専門領域／消化器



内科

いこま まさ  
**生駒 麻貴**

患者さんに寄り添い、丁寧な診察を心が  
けていけるよう努力していきます。よろ  
しくお願ひします。

専門分野／糖尿病・内分泌

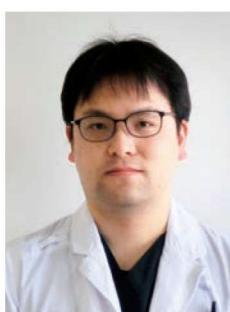


腎臓  
内科

きた せりな  
**喜多 芹菜**

患者さんひとりひとりに寄り添った医療  
を提供できるよう心がけております。  
よろしくお願ひします。

専門分野／腎臓



耳鼻咽喉科・  
頭頸部外科

こばやし よしあき  
**小林 義明**

患者さんの利益となるように医療を提供  
できればと思っております。  
よろしくお願ひします。

専門分野／耳鼻科・頭頸部外科



脳神経  
外科

ひろた ゆういち  
**廣田 雄一**

患者さんに寄り添った医療を提供するこ  
とを常に心がけています。よろしくお願  
ひします。

専門分野／脳血管障害、脳血管内治療



お知らせ

## ＊創立記念日休診のお知らせ

令和4年6月1日(水)は創立記念日につき、外来診療を休診いたします。(救急の場合は救急外来で対応します)

お問い合わせ先

広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。

TEL:076-252-2101(代) URL:<http://www.asanogawa-gh.or.jp/>  
メールアドレス:kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp

